

1. 件名：高温焼却炉建屋東側壁面からの水の漏えい事象に関する面談
2. 日時：令和6年2月9日（金） 11：05～11：50 17：00～17：05
3. 場所：原子力規制庁3階会議室
4. 出席者（テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁

長官官房 総務課 事故対処室

田村室長補佐、堀越室長補佐

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻管理官補佐、元嶋専門職

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 2名

廃炉安全・品質室 2名

福島第一原子力発電所

建設・運用・保守センター 2名

防災・放射線センター 1名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、高温焼却炉建屋東側壁面からの汚染水の漏えい事象に関する対応について、資料に基づいて説明があった。

○規制庁から事実関係を確認するとともに、以下の点を指摘した。

- 発生時の洗浄作業及び作業員の状況を時系列で説明すること。
- ベントラインからの漏えいの原因及び仕組みを説明すること。
- 漏えい量及び放射線の算出方法を説明すること。
- 今後の作業予定（除染、土壌回収等のスケジュール）について説明すること。
- 土壌に浸透した汚染水が管理区域外に漏えいする可能性及びその確認方法について説明すること。

○東京電力から以下の回答があった。

- 発生時の状況について

2月7日（水）

午前8時33分頃 ろ過水の元弁を「開」

午前8時53分頃 作業員が高温焼却炉建屋東側壁面のベント口から水が漏えいしていることを確認

午前9時10分頃 ろ過水の元弁を「閉」

午前9時16分頃 当直員が配管からの漏えい停止を確認

午前9時37分頃 漏えい箇所周辺に区画（関係者立ち入り禁止）を実施となっている。

- 詳細について現在調査中（関係者へのヒアリング等）であり、まとまった段階で報告する。
- ベント口からの漏えい原因について、詳細は調査中だが、本来の配管フラッシング時には、ベントラインの元弁は「閉」になっていなければならないものが、「開」になっていたことにより、当該ベント口から水が漏えいしたものと考えている。なお、今回東京電力において作業をしていたA系のベントラインの元弁は全部で16箇所あり、うち10箇所の元弁が開いた状態であった。
- 漏えいした水は系統水とフラッシング用のろ過水との混合水であり、推定の漏えい量等は、現時点で取得できている情報に基づき仮定の上で保守的に算出している。現時点でこれ以上の精緻な漏えい量は分からない。算出の根拠については、

①漏えい量

- ・ろ過水タンク低下量：約 17.6 m³（8:33～9:15）
- ・高温焼却炉建屋：約 12.1 m³上昇（8:33～9:15）

⇒保守的に見て、17.6 m³ - 12.1 m³ = 約 5.5 m³の建屋外の漏えい。

②放射能量

- ・吸着塔の入口 (Cs-137)
- （フィルタ～吸着塔 1～3 塔）= 6.9E+10 Bq

③建屋内外への漏えい量を踏まえた放射能量

- ・(γ) 6.9E+10 × 5.5/17.6 = 約 2.2E+10 Bq

として、法令報告の基準（全γ：1.0E+8）を超えると判断した。

- 土壌回収作業は2月8日夕方から漏えい水の回収作業および周辺の資機材の移動作業を開始し、2月9日09:00頃に地面敷きの鉄板の撤去を完了した。
- 漏えいした周辺に側溝が無いことを確認しており、漏えい箇所から最も近いK排水路の放射線モニタ指示値に変動が無いことから、排水路への流入がないと判断している。現時点で排水路モニタに異常は確認されていないが、継続してモニタを注視する。（排水路モニタは24時間で常時監視している）
- 2月15日を目途に報告書を提出する方向である。

○規制庁から事実関係を確認するとともに、以下の点を指摘した。

- A系のベントラインの元弁について、通常の水処理を行う場合は、閉止されているのか。また、オートベント弁の仕組みを合わせて説明すること。

○東京電力から以下の回答があった。

- 通常の水処理を行う場合は閉止する運用としており、オートベント弁に

においてガスが抜ける仕組みである。水処理を停止している場合は、ベントラインの元弁は手動で「開」とする運用としている。

○規制庁から事実関係を確認するとともに、以下の点を指摘した。

➤ オートベント弁は、自動的にガスが抜けるとのことだが、ベントラインの元弁を手動「開」としている理由はなにか。

○東京電力から以下の回答があった。

➤ オートベント弁が不調気味であり、2014年頃からベントラインの元弁を手動で「開」とする運用を行っている。

○東京電力から面談終了後に、以下の説明について訂正連絡があった（17：00～17：05）。

➤ 先の説明ではオートベント弁は不調気味と発言したが、不調ではなくガスを抜けやすくする為にベントラインの元弁を手動で「開」とする運用としていたものである。

○規制庁は、詳細調査結果について改めて説明を行うよう求めた。

6. 資料

- ・高温焼却炉建屋東側壁面からの水の漏えいについて（2024年2月7日）